

令和 3 年度

1 自己評価及び外部評価結果

事業所名 : グループホーム おらほの家

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0370800211		
法人名	特定非営利活動法人明成会		
事業所名	グループホーム おらほの家		
所在地	〒028-0526 岩手県遠野市下町組11-49		
自己評価作成日	令和3年10月22日	評価結果市町村受理日	令和4年1月18日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

「笑顔あふれる第二のわが家」を基本理念に掲げ、職員一人ひとりが利用者個々へ支援が必要な場面では手を差し伸べ、できるところはやさしく見守り、入所された皆様が笑顔で生活できるように日々のケアに取り組んでいます。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/03/index.php?action_kouhyou

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 いわたの保健福祉支援研究会
所在地	〒020-0871 岩手県盛岡市中ノ橋通2丁目4番16号
訪問調査日	令和3年11月11日

事業所は住宅地の中にあり、事業所名を「おらほの家」とし、第二のわが家として、自分の家と同じように過ごすことを目指している。自治会活動に積極的に参加しており、清掃活動、祭りなど、地域交流は活発である。近所の方からの利用者への声掛けや挨拶、野菜の差し入れなどがあり、地域に溶け込んでいる。運営にあたっては、運営推進会議での意見や提言、職員からの改善提案などを取り上げ、入浴リフトの設置、使用頻度の低い畳を撤去して活動スペースの拡張などを行っている。日常生活に、料理、園芸、清掃などを取り入れ、フキの皮むきや洗濯物をたたんだり、家にいた時と同じ暮らしをする生活リハビリを支援している。看護師資格を持った職員が日常の体調管理を行なっている。また重度化や終末期に向けた支援の研修を重ねるなど、家族の意向に沿った終末期のケアができるように取り組んでいる。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

令和 3 年度

事業所名 : グループホーム おらほの家

2 自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	基本理念を第二の我が家として、笑顔で楽しく過ごして頂ける生活作りを目指しています。年度初めには理念についての研修会を行い、職員は生活そのものがリハビリに繋がるものと認識し日々の生活に生かせるようにしている。	今年度の理念を「笑顔あふれる第二の我が家」とし、自分でできることは自分で行き、自立して暮らし続けるよう利用者を支えていくことを目指している。暮らしの中の生活リハビリとして、利用者は職員とともに料理、掃除、園芸などに関わっている。理念は実践に活かされている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会に加入し班長の活動や清掃活動等に参加している。広報「おらほの家便り」を行政区内で回覧しホームでの様子を知って頂く機会としている。昨年よりお祭りは中止になっているが、利用者や職員が参加してきた。	自治会に加入しており、事業所の広報誌「おらほの家便り」を隔月に回覧板でお知らせしている。コロナ禍で地域のお祭りや事業所の行事が中止されているため、地域の人々との交流の機会は少なくなっているが、日常の挨拶や、ご近所の方から梅、フキなどの差し入れがあったりと、地域とのおつき合いは継続されている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域へお便りを回覧し、グループホームの活動内容や、季節に応じた情報を提供している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	入所者の活動や取り組みの様子を報告し、推進会議の委員からは、地域の情報提供を頂いたりホームへの助言を頂いている。行方不明対応や防災関連の助言等が運営にいかされている。	現在はコロナ禍のため、家族の参加は見合わせているが、区長、民生委員、地域の女性部長や老人クラブ代表、地域包括支援センター職員をメンバーとして、隣接のグループホームと合同で2ヵ月毎に開催している。幅広く地域の情報についても話題にとりあげ、事業所への質問、提言などをいただいている。昨年は避難訓練に参加され、アドバイスもいただいている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議で市の職員に利用者の状況を報告している。困難事例等の相談をし関係機関との連携を取れるようにしている。介護認定更新の調査の時には利用者の状況を説明している。	市直営の地域包括支援センターや市の健康長寿課などの担当者とは、情報交換や相談がしやすい関係がつくられており、困難事例などの相談にも協力が得られている。	

令和 3 年度

事業所名 : グループホーム おらほの家

2 自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束委員会を年4回開催し、全職員への研修を年2回定期的に行っている。身体拘束ゼロの手引きに基づいて廃止に努めている。個々の利用者の状況に応じて具体的な行為ごとの工夫を検討しケアに取り組んでいる。職員で気付いた事は情報を共有し、取り組むようにしている。	年4回の身体拘束廃止委員会と年2回の職員研修を通し、身体拘束ゼロに向け取り組んでいる。身体拘束の事例はないが、利用者へのスピーチロックについて、朝礼、研修会などで取り上げている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることのないよう注意を払い、防止に努めている	虐待について全職員への研修会を定期的に行い、虐待がどのようなものか理解を深めている。日頃から身体的な観察をし、気になった事は情報共有している。研修会の講師を職員が交代で担当することで理解を深める機会となっている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	昨年度、成年後見制度を利用した利用者がいたため研修会を行ったり、市などの関係職員より説明をうけたりし理解に務めた。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入所に際し、当ホームの重要事項説明書、勤務体制、事故発生時の対応等について丁寧な説明を心がけ理解を頂けるように努めている。解約時は家族、管理者他担当者との十分な協議を行っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者の表情や言動等からお気持ちを汲み取れるようにし、職員間で共有できるようにしている。家族の面会は控えて頂いている状況だが、来訪時や電話等があった際は近況を伝えながら家族の方が話し易い雰囲気を作り要望や相談等を把握するように努めている。	現在、コロナ禍により家族の来訪は少なくなっているが、来訪された際には必ず職員が話を聞いており、また、電話があった時にも心配なことなどを問いかけるようにしている。自分の思いを上手く表すことができない利用者の意向は、表情や声掛けの際の反応から汲み取っている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	年2回「スタッフ評価シート」を各職員が記入し、それを踏まえて代表者と個別の面談の機会を設け、要望や意見等を話せるようにしている。ケアでの悩み事なども相談出来ている。ミーティング、申し送り時に気付いた事や提案事項などが上がり反映する様に努めている。	施設長は年2回職員と個別面談を実施する際に、職員の意見や提案を聞いており、また、管理者も普段の業務やミーティングにおいても、話しやすい雰囲気を作りながら、職員の意見や悩みを聞いている。入浴リフトの設置、畳敷きからソファーへの切り替えは、職員の提案によるものである。	

事業所名 : グループホーム おらほの家

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者との面談の機会を設け、勤務の状況や要望など把握している。日常的にも話しをする機会をもち、職員一人一人の頑張りを認めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員全体の研修会や経験年数別の研修の機会を設けている。職員が交代で講師を努め、他の職員に伝える為に学習するため理解を深める機会となっている。働きながら資格取得が出来る様に支援している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	現在は控えているが、市内のグループホーム合同で研修会や親睦会等を行い、職員が交流する機会を持っていた。管理者間で定期的に集まりをもち情報交換などの機会となっていた。		
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用者、家族と面談して、本人の思いと、入所までどのように様に過ごしてこられたかを聞きとる。入所後は早く慣れて生活出来る様に、本人の様子に合わせて声がけを多く持ったり話を聞いたりなど、配慮に努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所の際にご家族からの情報提供を受けて利用者支援の為に必要な事や、ホームでの対応の仕方などを相談しながら支援にあたり、また認知症への理解を深めて頂く様に努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人、家族との面談や、関係機関からの情報提供等で入所への希望を把握する。入所により起こりえる事など段階的に相談していく。家族の希望によっては他のサービスの情報提供や利用申し込みの支援をする。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	家事など職員と利用者一緒に出来る事を行い、個々の得意なものや経験を活かせる場面作りや、教えて頂いたりしながら共に支え合う関係づくりに努めている。利用者との会話を多くもち、本人をより理解出来る様に努めている。		

事業所名 : グループホーム おらほの家

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	毎月本人の近況を、担当から手紙で伝えている。来訪時や電話等で連絡をとるときにも日頃の様子を伝えるようにしている。本人と家族が電話や手紙等で交流出来る様に支援している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	出掛ける事は少ないが、面会に来られた時は感染防止に努めながら対応している。入所後もかかりつけ医の受診を継続出来る様に支援している。2カ月ごとに来所する美容師や近所の住民との馴染みの関係作りができるように努めている。	コロナ禍により、利用者が出かけたり、家族などが会いに来ることが少ない日々が続いていたが、最近、短時間でも顔を見に来る家族も出てきている。利用者は定期的に訪れる訪問美容師との世間話などを楽しんでいる。担当職員は、利用者の生活の様子などを手紙で家族にお知らせしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者間の相性等を考慮しながら、席替えを行ったりお互いに良好な関係が築けるように努めている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	次の施設に移られた場合や、入院中の相談、日常的な支援に対応している。退所した家族との関係が続いているケースもある。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者の表情や行動などを観察し、普段との違いなどを職員同士で情報交換し、本人の思いや希望を把握できるように努めている。	利用者一人一人の思いを普段の会話や表情、仕草などから汲み取ったうえで、職員で話し合い、ケアプランの作成、献立、テレビ番組、日中の活動内容など様々な場面に活かしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人、家族、関係機関からの情報提供等で把握し職員間で共有するようにしている。入所後も本人との会話や家族からじょうほうを得るようにしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	個々のアセスメントと定期的なモニタリングにより把握する。その日勤務の職員間で近日の体調や過ごし方などを話し合いより良い支援の方法を話し合っている。		

令和 3 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホーム おらほの家

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月のモニタリングや日々、気付いた事などを職員間で話し合い、ケアプランを検討している。モニタリングの担当職員は半年程度で変更し、少しでも多くの利用者を把握できるようにしている。	利用者と家族の意見や思いを把握してケアプランを作成している。プランの見直しに当たっては、職員が、担当する利用者のモニタリングを毎月行い、ミーティングで意見交換をするなど、現状に即したプランとなるようにアセスメントとモニタリングを繰り返し行っている。	モニタリングは職員全員で行うのが理想です。利用者、職員の入れ替わりもあり大変と思われませんが、特に新任の職員がいる場合には、研修の一環として位置付けたりしながら取り組まれることを期待します。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の本人の様子や、ケアの中で気付いた事、本人の言葉や表情なども記録に残し、職員間で情報を共有できるようにし、見直しの際に活かせるように努めている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人、家族の状況に合わせて必要と考えられるサービス等の情報を関係機関から得て、情報提供するように努めている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	かかりつけ医への通院の継続のための支援や定期的に来所してもらう美容師との交流など楽しみにしている。現在は控えているが、ボランティアの受け入れや地域のお祭りへの参加等楽しんでもらえるようにしていた。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入所前からの主治医に継続して受診をしている。通院は家族や職員が同行し、普段の様子を伝えるようにしている。往診での対応の利用者もいるので、電話やお手紙で家族に健康状態などを伝えている。	入居前からのかかりつけ医を継続受診している。現在はコロナ禍でもあり、受診には職員が同行している。受診結果は家族へ連絡し、職員間で共有している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師の配置により、日頃の権能状態や身体状況の把握に努めている。体調不良時や急変時には、速やかに連絡し指示をもらう体制にある。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院した場合は、病院に入所中の様子を情報提供し、家族と一緒に病状説明を受けるようにしている。家族と利用者の希望に配慮しながら早期退院に向けた取り組みを行う。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所時に、重度化した場合や終末期について家族に説明し、状態の変化に応じて家族の意向を確認しながら支援していく事を伝えている。現在まで見取りの実績はないが、主治医や家族の協力を得ながら取り組んでいけるように、研修会など現在取り組めることを続けていく。	入居時に、重度化した場合や終末期の支援について利用者と家族に説明し、理解してもらっている。状態の変化に応じ家族等と相談し意向に沿った支援を行うこととしている。これまで看取りの経験はないが、事業所と医師、家族の連携を図りながら、チームで支援できるように話し合っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	定期的に研修会をうけて緊急時には対応できるようにしている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練訓練を定期的に行い、年1回は運営推進会議と同じ日に行い、委員に参加してもらい意見等を頂いている。夜間を想定しての訓練をしている。火災以外の避難訓練はまだ不十分である。	火災を想定した避難訓練を春と秋に実施し、春は消防署の立ち会いで行った。火元確認、初期消火、消防通報、避難誘導などの手順を確認している。夜間想定では避難経路を再確認することができている。	発災には職員だけの対応では限界があり、利用者の避難誘導や見守りなどに地域の方々の協力が得られるよう、運営推進会議において意見、アドバイスを伺い、対策に活かすよう期待します。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入浴、トイレへの誘導時は「お手伝いをお願いします。」等、他の利用者につづかれないような声掛けに気を付けている。他の人の目に触れないように十分な注意をはらっている。	利用者を人生の先輩とし、敬意とマナーを忘れずに接することを接遇スローガンに掲げている。職員は日々、利用者一人一人の尊厳を守るように努めるとともに、食事作りなどの生活の知恵を利用者から学んでいる。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	思いや希望を表せない利用者もいるので、表情や仕草等からくみとり、それを引き出すような言葉かけをしている。日々の生活場面(献立、テレビ番組、日中の活動等)での希望を聞き取り取り入れるようにしている。		

令和 3 年度

事業所名 : グループホーム おらほの家

2 自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人一人のその日のペースを大切にしている。その日の様子等から希望等に配慮し支援するように努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	季節にあわせた服装ができるように支援している。カットの時は好みのヘアスタイルを美容師に伝えている。好みのクリームなどの購入の支援をしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	団子を丸めたり、もやしのひげ取り等野菜の下ごしらえの手伝いをお願いしている。日々の食事の様子等から利用者の嗜好や食べたいものなどを把握している。誕生日には好きな物や希望をきき準備し楽しんで頂く様にしている。	所長が献立を立て、職員が買い出しに出かけている。利用者は出来ることを手伝い、野菜の下拵えでは、職員が教えられることが多くある。正月やお盆、誕生会の行事食は希望を聞き、昔懐かしいお煮しめ、団子などを楽しめるようにしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個々の食事摂取量を確認し、体調や状態に合わせて量や形態を工夫している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後個々にあわせてさり気ない声掛けや介助で支援をしている。口腔ケアが健康上重要であると職員が理解し支援をしている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人ひとりの排泄リズムを日誌にチェックし、個々の様子に合わせて声掛けしトイレ誘導している。2名は布パンツを使用しているが、他7名はリハビリパンツを使用しているがトイレへ誘導しトイレでの排泄を支援をしている。	排泄チェック表を作成し、利用者一人一人の生活リズムに沿ってトイレでの排泄が可能になるように、適時に誘導を行っている。トイレに誘導する際には、羞恥心に配慮した声掛けをしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	可能な限り水分や牛乳(ヨーグルト)、食物繊維を多く取り入れる。運動など個々に応じた便秘予防や自然排便の促しに取り組んでいる。		

令和 3 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホーム おらほの家

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴日、時間帯は大体決めているが、個々のペースでゆっくり入浴出来る様に支援している。介護用入浴リフトになってからは、浴槽に浸かる事ができるようになり喜ばれている。	入浴は週2回、ゆっくりとした時間をとっている。入浴リフトの設置により、車椅子でも湯船に安心して入ることができるようになった。入浴は、利用者と職員の一对一の会話の機会でもあり、昔話で懐かしんでいる。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中の活動を通して夜間良眠できるよう生活リズムを整えることを大事にしている。夜間は居室内の照明や温度、加湿等、安眠できる環境に配慮している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個人ごとの服薬状況を把握するようにしている。新しい薬など処方に変更があった場合は申し送り等で情報を共有し、服用後の様子についても観察し、変化の確認をしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	本人の楽しいと思える事、できそうな事を探し一緒に家事を行ったりしている。常に感謝の言葉を伝えている。コーヒータイムや日光浴等、希望に合わせて支援するように努めている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	散歩に促しても出かけない利用者が多く、お花見や季節毎にドライブを計画し外出の機会となっている。玄関先での外気浴は、日常的に行っている。	コロナ禍により、外出の機会が少なくなっているが、春には桜、紫陽花などを見にドライブに出かけ、季節の景色を楽しんでいる。また、散歩に出かけない利用者が多いので、玄関先の椅子に座って外気浴を行い、五感刺激を得られるようにしている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	入所時に家族と相談し、所持している人は数人いる。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人や家族の希望があればその都度支援している。		

令和 3 年度

事業所名 : グループホーム おらほの家

2 自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	建物の真ん中にダイニング、リビングがあり花や季節の飾り付けを行い、居心地よく過ごせるようにしている。廊下の壁には利用者の写真をはり、利用者が足を止め自分の顔を見つけ笑顔になったり、会話のきっかけになっている。日中夜間の温度調節採光に注意している。	廊下、リビング、食堂、浴室、トイレなど、利用者が共用している空間は掃除が行き届き、温度も適温に保たれている。広く開放感のあるリビングでは、体操や風船バレーで体を動かし、音楽を聴いて歌を歌ったり、午後のコーヒータイムには新聞たたみの手伝いをするなど、思い思いに過ごしている。壁には花の絵や利用者が作った貼り絵などが飾られている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	自分の好みの椅子やソファで自由に過ごせるようにしている。利用者同士の交流が持てるようにテーブルの配置を工夫している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家で使い慣れた物や、家具を持ってきてもらい本人の使いやすさを相談しながら配置を工夫している。家族の写真や、思い出の人形など飾っている。	居室は、エアコン、パネルヒーターが備え付けられている。ベッド、衣装ケース、椅子などは馴染みのものを持ち込み、家族写真、こけしなど思い出のものを飾り、自分の部屋という意識で落ち着いて過ごせる、第二のわが家としている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	段差はなく、動線に配慮して椅子やてすりを設置している。居室の前に表札を付けたり、トイレの表示をつけている。		